

累計162万部突破

『このミス』大賞受賞、『さよならドビュッシー』シリーズ最新作
中山七里 『おわかれはモーツァルト』12/18発売

『おわかれはモーツァルト』
 定価:1760円(税込)
 発売日:2021年12月18日(土)

ピアニスト・岬洋介の
 音楽ミステリー
 『さよならドビュッシー』
 シリーズ

『このミステリーがすごい!』大賞受賞作、中山七里氏の『さよならドビュッシー』シリーズの最新作『おわかれはモーツァルト』を2021年12月18日(土)に発売します。

当シリーズは、ピアニストの岬洋介(みさき・ようすけ)が周囲で起きる事件を解決していく音楽ミステリーです。第1作は映画化され、シリーズ累計162万部を突破する大ヒットとなっています。今作は、殺人事件の容疑者にされてしまった盲目のピアニスト・榊場(さかさば)を岬洋介が救うストーリーです。

著者の中山七里氏の作品は映像化も多く、2020年だけで『連続殺人鬼カエル男』(宝島社)、『ドクター・デスの遺産』(KADOKAWA)、「御子柴弁護士」シリーズ(講談社)、『セイレーンの懺悔』(小学館)、『夜がどれほど暗くても』(角川春樹事務所)、『作家刑事毒島』(幻冬舎)の6作が映像化。今年10月に公開された映画『護られなかった者たちへ』も話題となっています。

【あらすじ】

2016年11月。盲目ながら2010年のショパン・コンクールで2位に入賞したピアニスト・榊場隆平(さかさば・りゅうへい)は、クラシック界の話題を独占し人気を集めていた。そんなある日、「榊場の盲目は、自身の付加価値を高めるための芝居ではないか」と絡んでいたフリーライターが銃殺され、榊場が犯人として疑われてしまう。事件は深夜、明かりの消えた室内で起きた。そんな状況下で殺人ができるのは、容疑者のうち、生来暗闇の中で暮らしてきた榊場だけだと警察は疑わない。窮地に追いやられた榊場だったが、そんな彼のもとに、榊場と同様ショパン・コンクールのファイナルリストに名を連ねたあの男が駆けつける——!



『さよならドビュッシー』
 2010年1月8日発売
 ※発売日はすべて単行本のものです



『おやすみラフマニフ』
 2010年10月12日発売



『いつまでもショパン』
 2013年1月10日発売



『どこかでベートーヴェン』
 2016年5月25日発売



『もういちどベートーヴェン』
 2019年3月20日発売



『合唱 岬洋介の帰還』
 2020年4月17日発売



【中山七里(なかやま・しちり)プロフィール】 ※著者の取材、ご相談可能です!

1961年、岐阜県生まれ。第8回『このミステリーがすごい!』大賞・大賞受賞作『さよならドビュッシー』にて2010年にデビュー。2011年発売の『連続殺人鬼カエル男』も同時に『このミス』大賞の最終選考に残った。「岬洋介」シリーズをはじめ、「御子柴弁護士」シリーズ(講談社)、「刑事犬養隼人」シリーズ(KADOKAWA)など著書多数。また、『さよならドビュッシー』『連続殺人鬼カエル男』『ドクター・デスの遺産』『セイレーンの懺悔』『夜がどれほど暗くても』『護られなかった者たちへ』など映像化作品も多数。